人権と平和新聞

2016年8月26日発行

共に生きる

平和・人権
社会・宗教
政治と暮し
分かち合い

No.71

長月（ながつき） 9 2016

発行／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10／瀬下幸弘 FAX093-622-1290

敗戦から71年

平和憲法の出発点は侵略戦争の反省から

アベ政治を許さない

自民党の「憲法改正案」は〝侵略戦争〟を反省せず〝不戦の決意〟を削除

8月号で、漫画家、西山進さんの漫画しんぶんNO.九〇を紹介しました。「もっと過去の歴史を勉強して何とかしよう。まだ間に合うよ」。

戦争体験者が少なくなりましたが、戦争の語り部たちから学ぶチャンスはあります。日本が侵略戦争を進めたその歴史を勉強する材料は数多くあります。なぜアジアの諸国民を2000万人以上犠牲にしたのか、日本全土にわたる大空襲、沖縄の地上戦、広島長崎の原爆投下などで日本国民を300万人以上死なせた事実。その反省の上に立って日本国憲法が成立、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起きないやうにすることを決意し」（日本国憲法前文）ました。武力行使を放棄して不戦の決意を明記したのです。同時に基本的人権の尊重と国民主権も明記されました。

敗戦から71年経ちましたが、平和憲法の力によって自衛隊の戦死者を一人も出さずにここまで歩んできました。これは世界に誇れる貴重な実例です。しかし自民党改憲案からは、侵略戦争への反省がありません。これでは隣国や他国と平和に共存できるはずはありません。時計の針を巻き戻すような時代錯誤の案です。昨年9月19日、「戦争法」を成立させた安倍政権は、それまで海外派兵でも武器使用は正当防衛に限る、戦闘地域にいかないとしてきた歯止めを自ら取り除きました。次は憲法9条を明文改憲することで武力行使が「合憲」になります。〝不戦の決意〟が削除された改憲派の本音が見えます。

「キリスト者・九条の会」北九州

林尚志神父の

平和講演

「個人の尊厳と理想。国家権力と憲法」

9月24日（土）14時～15時30分
西南KCC　2F
小倉北区大田町14－31　駐車場有り
無料（席上カンパ有）

日本宗教者平和協議会が声明
8月18日

安倍晋三首相の「核先制不使用」反対の発言に抗議する

（抗議声明の終わりの部分です。）

いのちの尊さを覚え、「殺し、殺される」戦争を二度とくり返してはならないと祈念する宗教者として、安倍首相の神仏をも畏れず、平和実現を核兵器に恃（たの）むがごとき愚見に対する警告と抗議の意思を強く表明するものです。

9月の講演・集会案内

◆9月3日（土）宗教者平和懇談会　参議院選挙総括
※市民参加できます（下関市民活動センター）…14時

◆9月7日（水）植村隆講演会（福岡市 西南学院大学）…14時30分
主催「慰安婦」問題と取り組む九州キリスト者の会

◆9月19日（月）**戦争法廃止集会**（各地で開催予定）

◆9月23日（金）**黒崎駅前街頭宣伝**（八幡西区革新懇）
戦争法廃止の署名と呼びかけ…18時～19時

◆9月24日（土）**キリスト者・9条の会平和講演**
講師/林尚志神父※どなたも参加可（西南KCC）…14時

世界人権宣言（谷川俊太郎訳）

第20条　集まる自由、集まらない自由

人には、平和のうちに集会を開いたり、仲間を集めて団体を作ったりする自由があります。しかし、いやがっている人を、むりやりそこに入れることはだれにもできません。

9月4日(日)：イチイチ祈りの会

黒崎教会（カトリック）ペトロの部屋、ミサ後～

どなたでもお出でください。

※「共に生きる」紙は読者の皆様のカンパによって発行しています。（1部75円・送料別）

読者通信

沖縄県東村高江（ひがしそんたかえ）のことが心配

（北海道 W洋子）

政府は全国から500名以上の機動隊をこの小さな村に送り込み座り込みの多くの人たちを排除し、ヘリパッド建設を強行していますが、メディアはほとんど伝えません。高江の情報はIWJやマガジン9の三上監督のブログから得られます。IWJの動画の中で宜野湾の牧師さんが高江で話しているのを見つけました。どうかご覧になってください。キリスト者として命がけで闘っている姿に感銘を受け、自分なりに書き起こしました。（7月28日）

（以下はWさんが書き起こしたものの中から抜粋）

…今、この沖縄の状況を一番弾圧しているのは、正直言って、日本国民の多くですよ。裁判所のほうでは、ああいう状況で裁判官をよこしているわけでしょ。だからね、我々はそこで負けてはだめだ。あの（聖書に出てくる）婦人のようにね、しぶとく最後まで勝つまで闘わねばならん。日本国民の8割はもう堕落してだめなんだ。滅びる運命になっている。だって戦争に負けたときに真剣に悔い改めてないでしょうが！ドイツと違う！真剣に悔い改めているなら、今のような状況にはならんはずだ。

とにかくね、取り返そう！我々の方に正義がある。絶対に負けない！体でも負けない。特に精神力で負けちゃだめなんだ。彼らは我々に精神的にもういやだと思わせようとしてらっているわけだから。そう、これまた聖書にある。体を壊してもね、精神を滅ぼすことができないものを恐れる必要はない。このことをね、我々は実践していきましょう。

（山城博治氏）　牧師さんらしい話をされたのは今日が始めてじゃないですか。立派な講演でした。

写真は7月19日
沖縄タイムス
ネットより

足立、多摩、習志野、柏、久留米、横浜、福岡…。暗闇に見慣れないナンバープレートが浮かび上がる。機動隊の警備車両、通称「かまぼこ」と呼ばれる大型車両が続々と全国各地から沖縄県北部に結集してきた。もう数え切れない。他府県から500人を超える機動隊員が一気に島に乗り込んでくるなど前代未聞のこと。これは間違いなく日本の沖縄の、いや日本の歴史に残る汚点になるだろう。
（三上智恵の沖縄撮影日記より）

（牧師）　もう一つ言わんとならん。何で牧師が平和運動をするのかと。でも皆さん、よく考えて。牧師の一番の仕事は命を大切にすることでしょう？違いますか？。私はこの間あの婦人が亡くなった場所に行ってきましたよ、手を合わせに。これが本当の牧師の仕事なの。聖書にあるでしょ！「平和を作り出す人は幸いだ」と。平和を作り出す人だよ。平和を説教する人は幸いと書いてない。平和を語る人は幸いと書いていない。ね、そう、平和を作り出す、なぜ作り出す人は幸いとなるか。神の子となるからだ。作り出すとなると、抵抗があるんだ。今ここのようにね。寝ていてはできない。抵抗がある、抵抗が。だから作り出す人が幸いであって、説教する人は幸いじゃないんだよ。

このような日本を変えましょう

（福岡市 西山進）

いつも「生きる」ありがとうございます。国を愛する人々の言葉に励まされています。この便りの着く頃は（7月10日着）選挙の結果が出ていますが、街を歩いても激的な変化を期待できるような空気ではなく、何よりもマスメディアのあり方が問われます。支配者は、金、物という大きな「力」で我々を支配していますが、このままではまったくアメリカの属国、沖縄が大きな犠牲となって日米同盟の大きな鎖でつながれてしまいます。

フランス革命で労働者や良識ある貴族たちが立ち上がってフランス革命をたたかいました。シールズと野党連合そして市民もいれて安倍打倒をやりましょう。

こんな暑い日は井戸で冷やした西瓜を家族が輪になって食べたものですが、宮沢賢治のうたった田舎の風景はありません。海岸線はコンクリートに固められ、トマトもカボチャも輸入もの、子どもたちのたむろした駄菓子屋はなく、ほんとうに「保育園落ちた」です。黒崎の商店街も小倉の旦過市場も長崎の浜の街アーケード街も虫の息です。

こんな日本を変えましょう。

西山進の漫画しんぶん91号より

読者通信

地元でもある相模原の事件には、無関心ではいられません。

(兵庫県 Sさんより)

共に生きるありがとう。先日友人にメールを打ちましたら、先ずこの反応が返ってきました。この悲しみを相模原育ちであり、自らも障害をもちながら、ある障害者施設で長年勤務し定年を迎えた方です。現在もその施設で第2の人生として障害者を愛し、人生をかけています。御一読ください。8月12日

・　・　・　・　・

人の心にはどのように思いが育つのでしょう。

両親が家を出たのは何故？　家庭内病理？

そもそも何故入職したの？

園長の他人事のような返答は、公立の天下りだから？ 園にはどんな風が流れていたのでしょう。

障害児を育てた友人は『父親が仕事で障害児の先生で仕事に没頭して疎外感を感じて育ったことが、潜在的な障害児への偏見を作ったのではないか』と。

どんなに仕事が辛くても報われないように感じても守るべきものがある。それを支えるのは職業倫理や人間愛だけでは足りないのでしょう。

私は時々、宗教心のない？日本人が規律を守ったり、他人に迷惑を掛けない生き方や武士道にも通じる恥を知る文化を持ち続けていることに不思議を感じています。それがすべてに通用するわけではない?!

現場にいるものとして、スタッフの待遇改善は勿論大切です。労働に見合う対価が支払われるべきです。充分な休暇とリフレッシュも必要ですよね。

それだけではないでしょう。

話の出来ない方に話しかける、肌に触れる、その方の人生を想像してみる。それが仕事として関わるものが欠いてはならないものなのではないでしょうか？

私も弱い人間です。苦しみながら自分を抑えることもあります。福祉施設で働く人々の努力が社会からも正当に評価されるようにと願っています。

あき子

感謝です (北九州 Aさんより)

毎月の「共に生きる」は、共鳴しながら読ませていただいております。決して離れてはいけない現実を知ることが出来ます。ささやかですが切手を送らせていただきます。　7月6日

《アムネスティ》下関通信 (2016／9)

アムネスティ日本から、8／24私個人宛にも「グッドニュース」が飛び込みました。今春の緊急アクション「流産で懲役8年！獄中のアルゼンチン女性を救え！」に応じた人は世界で12万人になり、この度被害者ベレンさんが釈放されたのです。妊娠中絶禁止国で流産後に拘らず「自ら中絶しようとした」と訴えられたのです。まだ最高裁判断待ちとのことですが、アムネスティは注視を続けていくそうです。

今夏の日本は参院選の不協和音を引き継ぎ、燃えるような市民活動が続きましたが、女性に関してはやはり「従軍慰安婦」関連が圧倒的な年でした。

昨年12／28「日韓合意」の反響を受け、3月国連女性差別撤廃委員会（「合意」は被害者中心ではない）、5月第14回日本軍「慰安婦」問題解決アジア連帯会議（「合意」は解決策にはなりえない）、7月全国行動抗議声明「被害者を欺く“和解・癒し財団”に抗議する」、8／14第4回日本軍「慰安婦」メモリアル・デーアピール（参加11カ国48都市、10億の使途の不一致は被害者を愚弄、「賠償金」とすべし）。

不協和音の頂点は、四半世紀に及ぶ運動で今や動かし難い国際問題に至っているに拘らず、切なる提言も被害者たちの「声」も聞かず、政府間で金銭による不可逆的解決をしてしまう怒りにあるのだと思えます。

だから、女性達は命をかけて納得できるまで、「女性」に対する真の戦争責任を問い続ける運動をやめることができません。真の戦争責任が明らかになるのは被害者の痛みを心から共有できる時だけです。

アムネ下関グループも10／15再び「中国人“慰安婦”映画」上映会を開きます。ご来会下さると嬉しいです。(PM1:30 カトリック細江教会)

(2016.8.25 アムネ下関、山県)

大学（だいがく）　一（はじめ）　弁護士と学ぼう ⑦

燃料について（続2）

『被曝』というのは、前回も申し上げたように「放射能からエネルギーをもらう」事であります。ところが、「半致死量」とされている『4シーベルト』の被曝をしても人間の体温は『1000分の1℃』しか上昇しないといわれているのです。通常、私たちが風邪を引いた時に体温を測り、「37度になった」とか「38度になった」といって大騒ぎをしております。しかし、栄養をとって安静にしておりますと2～3日もすればケロリと直ってしまいますし、薬をのんだり、病院に行って注射の1本もしてもらえれば早く治ってしまいます。つまり、死ぬようなことはほとんどないのであります。しかるに、放射能からのエネルギーを受けた場合には、体温が『1000分の1℃』しか上昇しないのに2人に1人は死ぬのであります。『8シーベルト』被曝すると『1000分の2℃』体温が上昇しただけで被曝した人が全員死んでしまうのです。どんな人でも助からないのであります。なぜ、その程度体温が上昇しただけで死ぬのでありましょうか。そこにこそ、放射能の『基本的な危険な性質』があるのであります。

それは、放射能に被曝することによって、放射能が人間の身体の『DNA』を破壊するためであるといわれております。人間は誰でも、父親からの精子と母親からの卵子が合体してできたものであります。はじめは、たった1個の『万能細胞』が1個から2個へ、2個から4個と順に細胞分裂を繰り返して約60兆個もの細胞となり、人間の形をつくりあげるのであります。この約60兆個の細胞にはそれぞれが「遺伝情報」をもっているのです。『遺伝情報』とは、遺伝によって子孫へ、または細胞から細胞へと伝えられる情報のことであり、DNA（またはRNA）塩基配列として符号化されて存在し、たんぱく質のアミノ酸配列を決定する情報や遺伝子の表現を調節する情報があります。人間の約60兆個ある細胞の1つひとつがもっている「遺伝情報」は全部同じであり、わたしたち人間の「生命」は細胞分裂しながら同じ「遺伝情報」を複製することで支えられているのです。もちろん、人間は一人ひとりみんな違います。性別も違うし、顔つきも違うし、体つきも違う、考え方も違います。世界の約70億といわれる人々はみんな違います。つまり、人間はすべて、それぞれが受け継いでいる自分だけの「遺伝情報」を複製しながら「全く違う人間」として生きているものなのです。

前述しましたように、人間は細胞によってできているものであります。人間の細胞を見ますと、細胞には『核』という部分があります。その「核」の中には、父親から得た「染色体」と母親から得た「染色体」が「23個ずつ」「鎖状」に二重螺旋（らせん）構造にねじれながら「チミン（T）」「アデニン（A）」「クアニン（G）」「シトシン（C）」という4つの「塩基」でハシゴ状につながれているのが『DNA（デオキシリボ核酸）』であり、この「ハシゴ」がどんな並び方をしているかによって、その人の「遺伝情報」が決まるといわれております。繰り返すようですが、私たちが子孫を残すときも、この「遺伝情報」が不可欠であり、私たちが生きるときもその「遺伝情報」に従って個々の細胞が機能を果たしているのであります。

そして細胞分裂のときには、2本のDNAの鎖が「スーッ」と分かれていって、片方の鎖がもう片方を正確に複製し、新旧が対になって元と同じ配列で繋がるようになっているのです。そして「遺伝情報」はまさに「神業」という以外に表現できない方法によって複製されるのであります。放射線に被曝しますと、このように「神業」でつくられて「遺伝情報」を切断し、遺伝子異常を引き起こすのであります。ここに、放射線被曝の恐ろしさがあるのです。このことをもう一歩突っ込んで『DNA』から考えてみることのいたします。

『DNA』というのは、「デオキシリボ核酸」の略称で、「デオキシリボ核酸（Deoxyribonucleicacid）ともいう五炭糖の1種のデオキシリボースを含む核酸であります。細胞核内の染色体の重要成分で、遺伝子の本体として遺伝情報の保存・複製に関係し、リボ核酸とともに、生体の種や組織に固有のタンパク質合成を支配するとされております。「デオキシ・リボース」(Deoxyribonuclecaid)の分子式は$C^5H^{10}O^4$でリボース水酸基の1つが水素に置換された糖で、デオキシリボ核酸（DNA）の構成部分となっております。このDNAとともに核酸の1種でたんぱく質、多糖類として生体高分子物質の1つである「リボ核酸」（ribonucleacid）というものがありますが、これはリボースを含む核酸のことでRNAと略記されているものです。これもデオキシリボ核酸とともにたんぱく質生合成に関係し、またRNAウィルスでは遺伝情報の保存・複製を行なっておるものであります。

『核酸』というのは、アデニン・グアニン・シトン。チミン（またはウラシル）の4種類の含窒素塩基と糖・リン酸が規則的に結合した高分子の有機化合物であります。糖がデオキシリボースかリボースかによって、それぞれ、デオキシリボ核酸（DNA）とリボ核酸（RNA）に二大別されるのです。これらは細胞やウィルスの遺伝物質として生命現象に重要な役割を果たしているものなのであります。

生物学的に『DNA』をみますと、遺伝子の物質的本体であって、RNAウィルスを除いて、すべての生物に染色体で

存在しているものですが、染色体だけでなく、ミトコンドリアや葉緑体にも存在しているものであります。原核生物では、環状2本鎖のDNAそのものが染色体で、そこに多くの遺伝子が線状に配列しており、真核生物では2本鎖のDNAとヒストンとがヌクレオソーム連鎖を形成し、それが細胞周期のM期で折りたたまれて染色体の形をとっているのです。遺伝子は、その染色体上に、線上に配列されておるのであります。人間の体細胞（2倍体）1個に含まれているDNAの長さは2m（約60億塩基体）にも達し、そのDNA上に10万個以上もの遺伝子が存在すると考えられているのです。人間の体を構成する細胞を、約10兆個（10^{13}個）としますと、1個あたりのDNAの長さは2×10^{13}mにも成るのです。具体的に人間のDNAを考えてみますと、約2nm(nm=ナノメートル。1ナノメートルは0.000001mm)で1つの細胞につき長さ1.8メートルのDNAがふくまれているのであります。これを仮に、DNAの太さを0.2mmの糸に拡大してみますと、1つの細胞の中のDNAの長さは全長180kmにもなります。つまり、0.2mmの細い糸が、東京から伊豆半島の三宅島辺りまで伸びている計算になるのです。このことから考えますと、私たちの体内で、どんな化学工場でも絶対にできない精密な作業が行われていることが理解できると思います。

この『DNA』は、2つに機能を持っているのであります。その1つは自分とDNAを複製すること、もう1つがRNAと合成すること（転写）であります。そのほかにDNAには、遺伝子の発見を調節する調節遺伝子もあります。そして、このDNAは構造的にみますと、4種類のデオキヌクレオチド（アデニン・グアニン・シトシン・チミン）からなる2本のポリデオキシヌクレオチド鎖が5'側、3'側に関して逆平衡に並び、その長軸に対し、塩基がその面を水平にして直角に内方に突出し、互いに相手側鎖の塩基とAT対（アデニン対チミン）GC対（グアニン対シトシン）の法則で水素合成しているのです。この2本のヌクレオチド鎖は10.4塩基に1回の割合で1回転した右巻き螺旋構造をとっているので二重螺旋構造、または発見者の名に因(ちな)んで、Watson-Crickのモデルともいわれているのです。

この『DNA』は放射線や紫外線・化学物質により、化学変化するものなのであります。具体的にもうしますと、放射線に被曝しますとDNAの鎖が切断されてしまうのであります。その結果、発癌の原因となったり突然変異が生じるのであります。**このDNAの鎖が切断されるという現象はどのような原因で発生するのでしょうか。**それを検討してみますと、次の原理があると指摘されております。

DNAは細長い糸が「塩基」で結合されているのであります。『塩基』(base)というのは、酸と反応して塩を作る物質であり、水に溶解すると水酸化合物イオンを生じ、アルカリ金属元素やアルカリ土類金属元素の水酸化物で、広い意味ではプレスデッドの塩基とルイスの塩基という2種類の定義が付けられているものであります。DNAの二重螺旋構造は、アデニン（A）とチミン（T）・グアニン（G）とトシン（C）との間で「塩基対」が形成されてできているものなのです。『対』(Field)というのは、文意は2つそろって1組をなすもの、つがいの意味ですが、数学的には、乗法に大して可換(ab=ba)な環であって、その零要素(a+x=aなるx)以外の要素が乗法に関して群をなすものという意味であるといわれております。例えば有理数全体の集合のことであります。（有理数に対して無理数というのがあります。これは例えば$\sqrt{2}$(ルート)とかπ(パイ)（円周率）のことをいうといわれております）。DNAは「塩基」で結合されているものでありますが、この結合はエネルギーに換算しますと、わずかに「数エレクトロボルト(ev)にすぎないものといわれております。『エレクトロボルト』というのは、電子のもつ国際単位系の組立単位のことであります。電圧・電位・超電力などの単位のことで、ある基準点から他の基準点に電気量を運ぶために必要とされる仕事の量のことです。従って「数エレクトロンボルト」というのは、とても小さなエネルギー単位なのであります。このことは放射線のもっている「エレクトロンボルト」と比べてみると、誰でもが直ちにご理解いただけると思います。私たちが病院でレントゲンを撮ってもらったときのエックス線のエレクトロンボルトは「100キロev」といわれております。従って「10万ev」ということになります。このため、レントゲンを撮るときにはできるだけ薄くするようにといわれているのです。

原発の放射線について見てみますと、①プルトニウム239は「5.1メガev」ですから「510万ev」ということになります。②セシウム131のエネルギーは「約661キロev」であります。したがって、放射線に被曝すると、私たち人間のDNAの結合体である塩基はたったの「数エレクトロンボルト」でありますから、たちまち切断されDNAはズタズタに引き裂かれて死んでしまうのであります。つまり、DNAがお互いに引き付合っている「数ev」のエネルギーに比べて、放射線の持つエネルギーは「数10万」から「数100万倍」も大きいものであるために「生命情報」が引き裂かれてしまい人間は死んでしまうことになるのです。JCO事故で被曝した大内久さんと篠原理人さんは被曝して死亡しましたが、そのときの被曝4日目に採取された大内さんの「骨髄細胞」の顕微鏡写真によると本来あるべき染色体がバラバラに切断されてちらばった黒い物質が写っていたといわれております。　（続く）

「キリスト者・9条の会」の〝9条守りたい〟定例会(2016年5月28日)

差別をなくし戦争のない社会を ②

在日コリアン歴史・文化と平和の語り部
裵 東録(ペ トンノク)さん

※文責／編集部

まず、学校でどのような授業を行っているかをちょっとだけ話します。寒くても暑くてもほとんど体育館で行います。寒い時は〝震えながら〟暑い時は〝汗を流しながら〟これは忍耐する、我慢することも勉強してほしいからです。私は子どもの頃、メンタムを買うお金がありませんでしたから靴下を履いたことがありません。メンタムがあれば家族9人でそれを分け合いました。今の子どもたちは我慢することがあまりできないようなので、あえて体育館でします。(ここでペーさんは、用意した大きな地図を広げて)「日本の北にある国を朝鮮半島と言います。朝鮮半島はもともと一つの国だったけど、朝鮮戦争という戦争で南と北に引き裂かれました。ペーさんのルーツは釜山から2時間くらいのところです。まずお父さんが強制連行で日本に行かされ、2年後にオモニ(母)も日本に来て、その3年後に私が生まれました。うそじゃないよ、ほんとの話よ。だからペーさんは日本語がしゃべれるんよ。」と言うと、子どもたちは理解します。「対馬から釜山が見えます。海があって隣の国が見えるというのは近いですか? 遠いですか?」と質問すると子ども達は「近〜い」と言います。「よくできたね、釜山と直線距離で結べば約60㎞、日本とアメリカは太平洋をぐるぐると渡って1万㎞もあります。朝鮮半島は近いよね。朝鮮半島は韓国と北朝鮮に分けられてしまったけど、住んでいる人は同じ民族で言葉も通じ合います。だからいつの日か統一して同じ国になることを願っています。はい、これで歴史と地理の勉強を終わりま〜す。」

(次にペーさんは子どもたちに、言葉の勉強として、挨拶やじゃんけんを教え、そして持参した民族衣装を着せたりすることを話ました。)

子ども達は素直ですから全てを喜びます。それから「三年峠」というとんち話の読み聞かせをするんです。(「三年峠」と呼ばれている峠で転んでしまうと、あと3年しか生きられないという言い伝えがある。あるハラボジが、その峠で転んでしまった。ハラボジは、自分の寿命があと3年しかないと嘆いて、病気になってしまった。そこへお見舞いにきた少年がハラボジに、「もう一度『三年峠』に行って転んだら寿命がもう3年伸びるよと話した。その理由は、一度転んだら3年間は生きられる。だから何度でも転べばもっと長く生きられると言って、ハラボジを元気づけたというお話)

このとんち話をするといろんな学校から、「三年峠の話を劇にしたいので、民族衣装を貸してほしい」と言ってきます。

【活動の原点】

こうやって私は歯をくいしばって語り部として500回、700回、そしてついに一〇〇〇回となりました。こういうわかりやすい授業をしてきたんです。きょうここにお集りの方の中で、私のことを知っている方でも、このような内容の授業をしてきたことは知らないと思います。私は20数年間やってきましたがその原点は…(次号)

編集後記

大学一(だいがくはじめ)先生から毎月、原子力発電のことについて原稿を頂き、パソコン入力しながら編集しています。福島第一原子力発電所の事故後、原発や放射能のことを学んできましたが、理解するには難しい点も。ところが大学先生の記事を連載し始めると、「とても勉強になります」「じつにわかりやすく書かれています」等の声が届くようになりました。私も同意見です。今号の冒頭、「『被曝』というのは、前回も申し上げたように放射能からエネルギーをもらう事」とあり、前号を読み返し、一層理解が深まりました。(瀬下)